



くらはし

舞鶴市立倉梯小学校
学校だより 2月号
令和8年1月30日

出会いと別れの季節に ― 節を刻む2月

数年ぶりの大雪により、市内の小・中学校ではやむなく休校措置をとることとなりました。子どもたちの安全確保を第一に考えての判断ではありましたが、急な対応にもかかわらずご理解とご協力をいただいた保護者の皆さまに、心より感謝申し上げます。

また学校再開に向けては、保護者や地域の皆さまに通学路の除雪にご尽力いただきました。皆さまのお力添えにより、子どもたちは安心して学校へ向かうことができます。改めて深く御礼申し上げますとともに、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

行く先の 雪に悩むや 子ども等の群れ(与謝蕪村)

深い雪に足を取られながらも懸命に前へ進む子どもたちの姿が目に見えます。雪の朝、頬を赤らめて登校してくる子どもたちのたくましさに、私たち大人が励まされる場面も多くあります。

倉梯の子どもたちは寒さに負けることなく、雪の積もったグラウンドでも元気いっぱい遊んでいます。「先生、見て見て。」と言いながら自慢の雪だるまを見せてくれる姿には雪がいつか溶けてしまう儚さを敏感に感じ取る、子どもらしい豊かな感性があふれています。

今回の大雪で特に印象に残ったのは、校区内に立つ竹の姿でした。重い雪を受けても大きくしなり、折れることなく立ち続ける竹。竹が雪に強い理由は、しなやかさとともに、「節」の存在にあります。節があることで力が分散され、揺れながらも折れることなく、次の成長へとつながっていきます。

2月。季節はいよいよ春へと向かい、学校でも大きな節目を迎えます。新1年生体験入学では、4月から入学してくる子どもたちが初めて学校の雰囲気に触れる大切な機会となります。そして、6年生を送る会。これまで学校の中心として行事や日常を支えてくれた6年生に感謝を伝え、次のステージへ踏み出す姿を励ます場です。いずれの行事も、中心となって準備・運営するのは5年生。来年度の最高学年に向けて自覚と責任を育む、まさに「節」となる経験です。

また、竹は一日に数十センチ伸びることもあると言われます。この驚くべき成長速度にも節が関わっています。節が成長点となり、節と節の間の細胞が急速に伸びることで、竹は真っ直ぐ大きく成長します。そのため節は、成長を支える「エンジン」と呼ばれることもあります。

学校の行事もまた、子どもたちの成長を後押しする大切な節目です。仲間と協力し、誰かのために行動する経験は、子どもたちの中に確かな力として蓄えられていきます。2月の行事が子どもたち一人一人の成長をさらに押し広げる節となることを願っています。

そして、雪は決して不便だけをもたらす存在ではありません。冬に降り積もった雪は、やがて雪解け水となり、田や畑を潤す大きな恵みとなります。厳しい季節のあとにこそ、次の命を育む力が宿っています。学校もまた、子どもたちの可能性を静かに支え、やがて芽吹く力へとつながる教育を進めていきたいと考えています。

春を迎えるとはいえ積雪の残る日も多く、まだまだ寒さの厳しい季節です。どうか引き続き安全に気をつけてお過ごしください。皆さまとともに、子どもたちの成長を温かく見守りながら、この学年の締めくくりを歩んでまいります。

校長 四方 直人